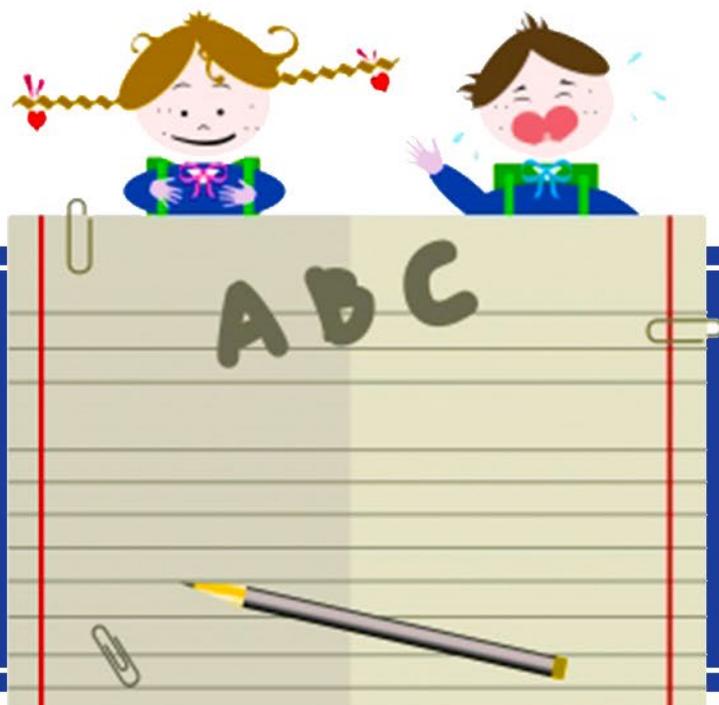


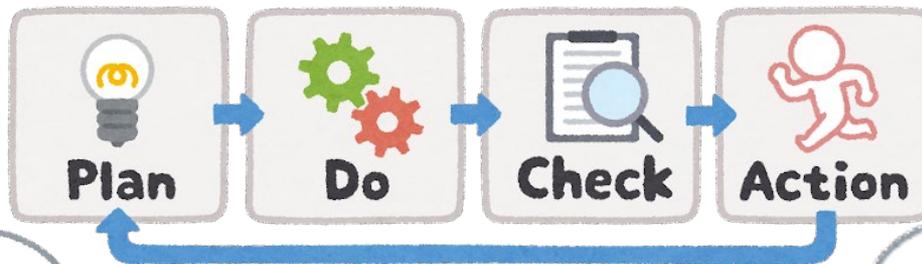
2022 英語授業改革セミナー 「本気で授業改革！」



# 小学校「外国語」の 指導と評価

～ 教科化3年目の今こそアップデート～

愛知県立大学 池田 周



読み書き  
どこまで?

指導の  
パターン化

## 教科化3年目 今こそ必要な 指導と評価のアップデート

### Goals of this Workshop

次の KEYS に沿って、5領域それぞれの指導と評価の改善を考えていきましょう

1. 「聞くこと」
2. 「話すこと[やり取り]」、「話すこと [発表]」
3. 「読むこと」
4. 「書くこと」

〈体験〉文字指導のためのレディネスを高める

5. 小学校「外国語」における「主体的・対話的で深い学び」の実現





アルファベットジングル  
〈動物編〉を  
言うことができる

先生が絵本  
This is ME! を  
読むのを聞いて  
その内容がわかる

アルファベットの小文字  
26種類を見て  
それを読むことができる

先生が言う  
アルファベットを  
書くことができる

身の回りにある  
アルファベット表示の  
アルファベットの文字を  
読むことができる

先生が絵本  
A Letter to .... を  
読むのを聞いて  
その内容がわかる

アルファベットの  
大文字26種類を  
正確に書くことができる

アルファベット26種類の  
読み方を聞いて  
どのアルファベットの  
小文字かがわかる

アルファベットの大文字  
26種類を見て  
それを読むことができる

アルファベット  
26種類の音を  
言うことができる

アルファベットジングル  
〈食べ物編〉を  
言うことができる

アルファベットの  
小文字26種類を  
正確に書くことができる

先生が読む絵本  
A Letter to .... の英文を  
指で追うことができる

先生が読む絵本  
This is ME! の英文を  
指で追うことができる

アルファベットジングル  
〈身の回り編〉を  
言うことができる

アルファベット26種類の  
読み方を聞いて  
どのアルファベットの大文字かがわかる

そろそろ  
「今日のめあて」を

にシフトしません  
か?

# 各領域で言語活動を行うために設定しておくべきこと

\*「～する」「～した」の部分に領域を当てはめて考える

## 何を「～する」のか

- ・コミュニケーションの相手と伝え合うもの(対象 [情報、考え、意見など])

## 何のために「～する」のか

- ・コミュニケーションを行う目的、コミュニケーションによって達成したいこと

## どのような条件下で「～する」のか

- ・コミュニケーションを行う場面・状況・環境など、相手との関係

## どういうふうに「～する」ことができればよいのか【学習到達目標】

- ・コミュニケーションが効果的、適切に行われているモデル、学習のゴールの姿

## 「～した」ことをどう振り返ることができるか【評価規準・基準】

- ・コミュニケーションが効果的、適切に行われたかの判断のために参照するもの



KEY 1

「聞くこと」

何を、どのように「聞く」のか

## 外国語活動

### Ⅰ 目標

#### (1) 聞くこと

- ア ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取るようにする。
- イ ゆっくりはっきりと話された際に、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味が分かるようにする。
- ウ 文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかが分かるようにする。

小学校学習指導要領(平成29年告示) p. 173

## 外国語

### Ⅰ 目標

#### (1) 聞くこと

- ア ゆっくりはっきりと話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができるようにする。
- イ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。
- ウ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができるようにする。

小学校学習指導要領(平成29年告示) pp. 156-157

## (2) 領域ごとの指導例

「4 (1)」において、振り返りのさせ方について示した。生徒に振り返りをさせる際、教師は、あらかじめ自己調整を図っている生徒の姿をイメージした上で（どのような自己調整をさせたいかのイメージをもった上で）振り返りをさせる必要がある。そこで、以下に、自己調整を図っていると考えられる生徒の姿の例を領域ごとに示す。

聞くこと	<ul style="list-style-type: none"><li>・聞き取れなかった単語を聞こえてきたとおりに自分で発音している。</li><li>・相手が何を伝えようとしているかを、話し手を意識して予想しながら聞いている。</li><li>・分からない時には聞き返している。</li></ul>
読むこと	<ul style="list-style-type: none"><li>・途中で止まらず最後まで読み進めている。</li><li>・音読することで文字を音声化している。 ※音声化することで、意味を推察することができる場合があるため。</li><li>・書き手を意識しながら分かった語句から推測して読もうとしている。</li></ul>
話すこと [やり取り]	<ul style="list-style-type: none"><li>・自分が理解したことを確認している。</li><li>・自分が話したことが伝わったかを確認している。</li><li>・聞き手を意識して、表現を変えるなど言い直しながら伝え合っている。</li></ul>
話すこと [発表]	<ul style="list-style-type: none"><li>・聞き手を意識して、話す内容や話し方を工夫している。</li><li>・発表後には、友達に感想を聞いている。</li><li>・自分の発表をタブレットなどで録画し、改善点を見付けている。</li></ul>
書くこと	<ul style="list-style-type: none"><li>・読み手を意識するために、書いたら、友達に読んでもらい、分かりにくい点がないかを確認している。</li><li>・最後まで書き、その後で、教科書や辞書を使いながら、書き直すようにしている。</li><li>・書き始める前に、書きたい内容をまとまりごとに分けてメモに書き出している。</li></ul>



## KEY 2

「話すこと [やり取り]」

指導者としてどのような支援を行うか

## 外国語活動

### 1 目標

#### (2) 話すこと〔やり取り〕

- ア 基本的な表現を用いて挨拶、感謝、簡単な指示をしたり、それらに応じたりするようになる。
- イ 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようになる。
- ウ サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようになる。

#### (3) 話すこと〔発表〕

- ア 身の回りの物について、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようになる。
- イ 自分のことについて、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようになる。
- ウ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物などを見せながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようになる。

## 外国語

### Ⅰ 目標

#### (3) 話すこと〔やり取り〕

- ア 基本的な表現を用いて指示, 依頼をしたり, それらに応じたりすることができるようにする。
- イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について, 自分の考えや気持ちなどを, 簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。
- ウ 自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について, 簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして, 伝え合うことができるようにする。

#### (4) 話すこと〔発表〕

- ア 日常生活に関する身近で簡単な事柄について, 簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。
- イ 自分のことについて, 伝えようとする内容を整理した上で, 簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。
- ウ 身近で簡単な事柄について, 伝えようとする内容を整理した上で, 自分の考えや気持ちなどを, 簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。



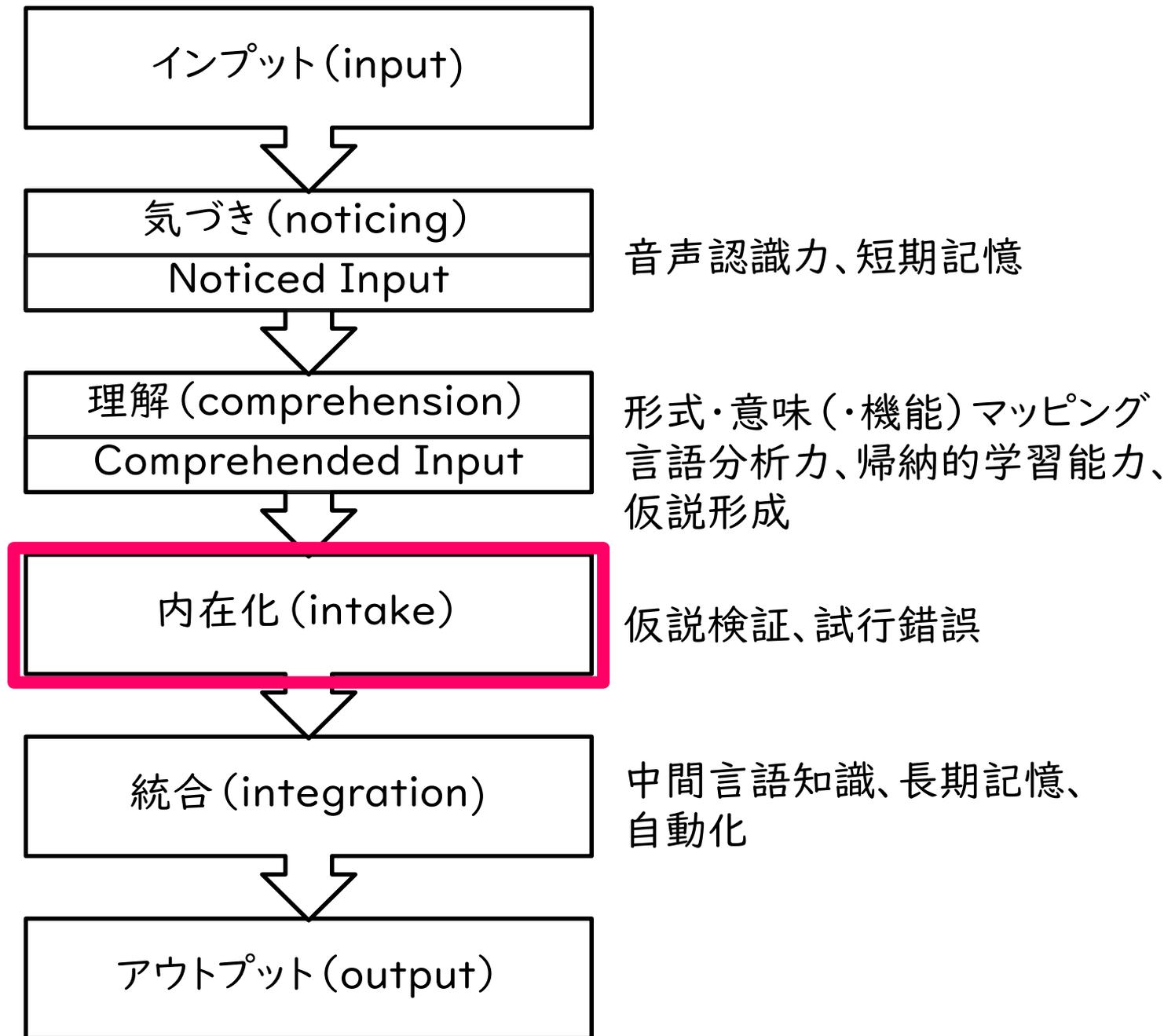
Small Talk

対話の開始	対話の始めの挨拶 Hello./How are you?/I'm good. How are you? など
繰り返し	相手の話した内容の中心となる語や文を繰り返して確かめること 相手：I went to Tokyo. 自分：(You went to) Tokyo. など
一言感想	相手の話した内容に対して自分の感想を簡単に述べ、内容を理解していることを伝えること That's good./That's nice./Really?/That sounds good. など
確かめ	相手の話した内容が聞き取れなかった場合に再度の発話を促すこと Pardon?/Once more, please. など
さらに質問	相手の話した内容についてより詳しく知るために、内容に関わる質問をすること 相手：I like fruits. 自分：What fruits do you like? など
対話の終了	対話の終わりの挨拶 Nice talking to you./You, too. など

〈図表 1〉対話を続けるための基本的な表現例

『小学校外国語活動・外国語科研修ガイドブック』（文部科学省）p. 84

# L2習得の プロセス



●文法を実際のコミュニケーションの中で用いる言語活動について

- コミュニケーションを行う目的・場面・状況を明確にした活動になっていますか  
(「be going to を用いてやり取りをしよう」ではなく、「夏休みの予定を確認して一緒に遊べる日を決めよう」など具体的な課題を設定することが大切です。)
- 実際に活用できることを目指した指導になっていますか  
(意味のある文脈の中で文法事項を繰り返し用いる機会を与えることが大切です。生徒の伝える内容を重視して活動を行いましょう。)
- 使うべき言語材料を生徒自身に考えさせていますか  
(ヒントを示しすぎてしまうと、伝える内容を思考・判断・表現する力を生徒から削いでしまうことになります。)
- 生徒とやり取りを行う中で、一人一人の英語の発話に耳を傾けていますか  
(生徒の力はそれぞれ異なります。一人一人の実際の力を見極めて指導に生かすことが大切です。)

指導者：Look. This is the timetable of our class.  
We study many subjects.  
I like music. I can sing well. I can play the recorder.

指導者：How about you? What subject do you like?

兒童1：P.E.

指導者：You like P.E.? Nice. Why?

兒童1：I like soccer.

指導者：Oh, you like soccer? Me, too. I like soccer.  
Can you play soccer well?

兒童1：Yes.

指導者：You can play soccer well. That's great! Thank you, 兒童1.

指導者：Hi, what subject do you like, 兒童2?

• • •





I **enjoyed** watching baseball last night.  
I'm a member of the baseball club.  
I **practice** baseball every weekend,  
but I **can't** play it very well.  
I **wanted to be** a baseball player  
when I was small [as a child].  
I **like** baseball very much.





What sport do you like?



I like tennis.





T: What sport do you like?



S: I like tennis.



T: Oh, nice. You like tennis!





What sport do you like?

I like tennis.

Oh, nice. You like tennis!

T: What sport do you like?  
 S1: I like tennis.  
 T: Oh, nice. You like tennis!

ここからやり取りを  
 どのように発展  
 させますか?

同じ児童Aに、これまで用いてきた“I like ~.”とは異なる別の既習表現  
 “I can ~.”の理解と産出を促す

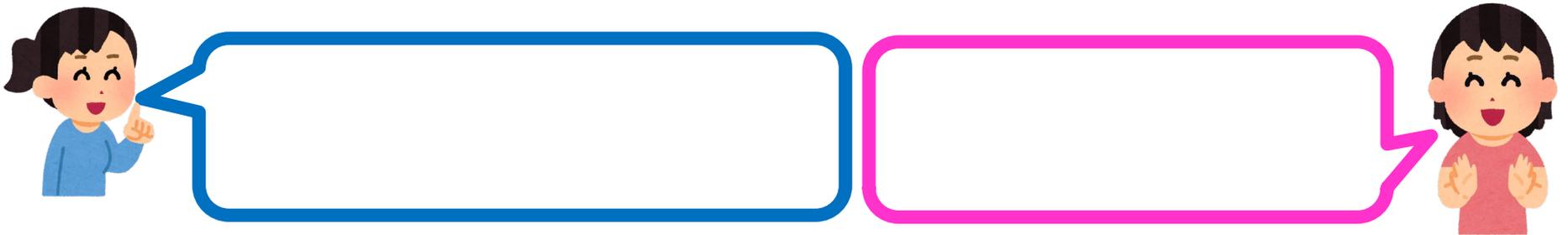
Can you play tennis well? /  
 (Are you good at tennis?)

Yes  
 (, I can)!

同じ児童Aに、さらに別の既習表現を用いた発話内容の深まりを促す

Why (do you like tennis)? /  
 Can you tell me more?

(Because) I can run fast. / It's exciting.



## 中間指導と支援のしかた



【場面：「うまく英語で表せなかった表現」を引き出す】

### ① 児童が部分的な語だけ尋ねた

「暑い」って英語で何と言いますか？  
(How do you say '暑い' in English?)



### ② 児童が文（表現）全体を尋ねた



「体育が好きだけど、夏は外が暑いから嫌だ」って  
伝えたかったのに、英語で言えなかった

◆ 生徒とのやり取りではいろいろな返し方をしましょう

ペアワークに教師が介入する場面と、全体の前で代表生徒とやり取りをする場面では、教師の英語による返しも変わるはずですが、また、生徒の英語力などに合わせて、以下の例を参考に換えられるようにしましょう。



What will you give your grandmother for her birthday?



Give... flowers?



← 以下の(1)から(4)のような返し方が可能です。

- (1) 生徒の発話を誘導する You... will...?
- (2) もう一度言い直しをさせる Will you say that again?
- (3) やり取りとして継続させる Sorry... you will give her some flowers?
- (4) 生徒の誤りを正して教師が言い直す You will give her some flowers.



## KEY 3

### 「読むこと」

小学校で求められていることを理解する

## (1)「内容のまとめり(五つの領域)ごとの評価規準」を作成する際の【観点ごとのポイント】

### ○「知識・技能」のポイント

- ・「知識」については、小学校学習指導要領「2 内容〔第5学年及び第6学年〕」の〔知識及び技能〕における「(1) 英語の特徴やきまりに関する事項」に記されていることを指しており、それらの事項を理解している状況进行评估する。
- ・「技能」について、
  - －「読むこと」は、実際のコミュニケーションにおいて、**活字体で書かれた文字を識別し、その読み方(名称)を発音する技能を身に付けている状況**や、音声で十分に慣れ親しんだ**簡単な語句や基本的な表現を読んで意味が分かっている状況**进行评估する。
  - －「書くこと」は、実際のコミュニケーションにおいて、**大文字、小文字を活字体で書く技能を身に付けている状況**や、音声で十分に慣れ親しんだ**簡単な語句や基本的な表現を書き写したり**、自分のことや身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ**簡単な語句や基本的な表現を用いて書いたりする技能を身に付けている状況**进行评估する。

### ○「思考・判断・表現」のポイント

- ・「読むこと」は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、**活字体で書かれた文字を識別し、その読み方(名称)を発音している状況**や、音声で十分に慣れ親しんだ**簡単な語句や基本的な表現を読んで意味が分かっている状況**进行评估する。
- ・「書くこと」は、**コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、大文字、小文字を活字体で書いている状況**や、音声で十分に慣れ親しんだ**簡単な語句や基本的な表現を書き写している状況**、自分のことや身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ**簡単な語句や基本的な表現を用いて書いている状況**进行评估する。

### ○「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

- ・「主体的に学習に取り組む態度」は、外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている状況进行评估する。
- －「読むこと」は、**コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、活字体で書かれた文字を識別し、その読み方(名称)を発音しようとしている状況**や、音声で十分に慣れ親しんだ**簡単な語句や基本的な表現を読んで意味を分かろうとしている状況**进行评估する。
- －「書くこと」は、**コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、大文字、小文字を活字体で書こうとしている状況**や、音声で十分に慣れ親しんだ**簡単な語句や基本的な表現を書き写そうとしている状況**、自分のことや身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ**簡単な語句や基本的な表現を用いて書こうとしている状況**进行评估する。
- ・上記の側面と併せて、言語活動への取組に関して見通しを立てたり振り返ったりして自らの学習を自覚的に捉えている状況についても、特定の領域・単元だけではなく、年間を通して評価する。

## 小学校「外国語」における「読むこと」の領域の目標

### (2) 読むこと

ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。

この目標は、活字体で書かれた文字の形の違いを識別し、文字を見てその名称を発音できることを示している。英語の文字には、名称以外に、語の中で用いられる場合の文字が示す音がある。例えば、a やc という文字は、/ei/ や /si:/という名称があると同時に、語の中では /æ/ (例: bag, apple) や /ei/ (例: station, brave), /s/ (例: circle, city) や /k/ (例: cap, music) という音をもっている。この目標における「読み方」とは、音ではなく、文字の名称の読み方を指していることに留意する必要がある。これは、中学年の外国語活動において、文字の読み方が発音されるのを聞いて、どの文字であるかが分かるようにすることが目標とされていることを踏まえてのものである。

【「読むこと」の評価規準の設定例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 (設定例)	<p>&lt;知識&gt;</p> <p><u>アルファベットの活字体の大文字・小文字</u>について理解している。</p>	<p><u>ALTなどに自分の名前</u>のスペル目的等</p> <p><u>リングを理解してもらったり、</u></p> <p><u>ALTや友達の名前</u>のスペリングを確認したりするために、<u>名</u></p>	<p><u>ALTなどに自分の名前</u>のスペル目的等</p> <p><u>リングを理解してもらったり、</u></p> <p><u>ALTや友達の名前</u>のスペリングを確認したりするために、<u>名</u></p>
	<p>&lt;技能&gt;</p> <p><u>アルファベットの活字体の大文字・小文字</u>を識別したり、その読み方を発音したりする技能を身に付けている。</p>	<p><u>前のスペリング</u>を識別し、発音事柄・話題</p> <p>している。</p>	<p><u>前のスペリング</u>を識別し、発音事柄・話題</p> <p>しようとしている。</p>

## 小学校「外国語」における「読むこと」の領域の目標

イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。

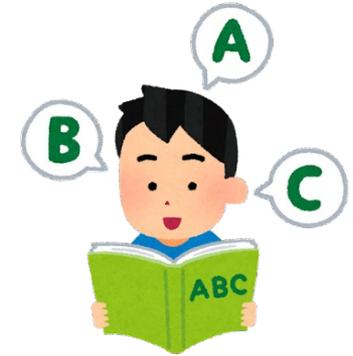
この目標は、中学年の外国語活動の「聞くこと」、「話すこと」の学習活動を通して、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにすることを示している。日常生活に関する身近で簡単な事柄について、掲示、パンフレットなどから自分が必要とする情報を得たり、絵本などに書かれている簡単な語句や基本的な表現を識別したりするなど、言語外情報を伴って示された語句や表現を推測して読むようにすることを示している。

アの項目で示したように、英語の文字には、名称と音がある。児童が語句や表現の意味が分かるようになるためには、当然のことながらその語句や表現を発音する必要がある、文字の音の読み方は、そのための手掛かりとなる。したがって、ここで示された目標に関して指導する際には、児童の学習の段階に応じて、語の中で用いられる場合の文字が示す音の読み方を指導することとする。その際、中学校で発音と綴りとを関連付けて指導することに留意し、小学校では音声と文字とを関連付ける指導に留めることに留意する必要がある。

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語・外国語活動編 p. 78

※小学校外国語科における「五つの領域別の目標」の文末は、「～できるようにする。」となっているが、「読むこと」のイのみ、「音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。」と、文末が「～するようにする。」となっていることに留意する必要がある。また、この目標は、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現が書かれているものを見て、音声化することを指している。その際には、言語外情報を伴って示された簡単な語句や基本的な表現を、児童が文字の音(語の中で用いられている場合の文字が示す音の読み方)を手掛かりに、推測して読むようにする。

書かれた語句や表現を「声に出して読む」(発音・音読する)ことと、  
「それらの意味が分かる」ようにすること



「読むこと」が包括する能力概念として区別しておきたいこと

◆ 音声化されているかにかかわらず「読んで意味が分かる」ようにすること、「声に出して読む(発音する、音読する)」こと

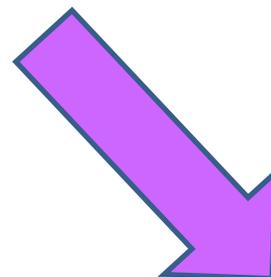
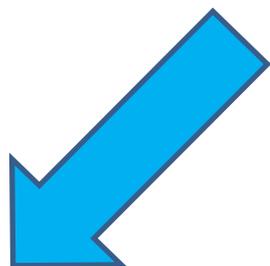
◆ 語句や表現に「音声で慣れ親しむ」、「モデルを聞いて真似る、繰り返す」こと、「文字を見て、それを音声化する(decoding)」こと

⇒ 少なくとも、(自分で語を選んで空欄を埋めながら)表現全体を書き写したりすることは、元となる表現に「音声で十分に慣れ親しんだ後で、文字を見ながらさらに言う」という学習過程を経ていれば、書き写した直後はそれを見て発音できるはず(必ずしも厳密なdecodingではなく、伝えたい意味を表す表現の記憶による可能性も高い)

⇒ 音声化(decoding)のための指導については、小学校学習指導要領においてもそのhowが曖昧なまま

# 児童の学習の段階に応じて、 語の中で用いられる場合の 文字が示す音の読み方を指導することとする

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語・外国語活動編 p. 78



「音と文字」の対応を  
知識として教える

- ある「音」は、特定の「文字」で表されることを気づかせる
- × ある「文字」は、特定の「音」を表すことをいきなり指導する

# 初期リテラシー獲得に必要な音韻認識レベル

## ◆ 日本語

- Syllable (≒ Mora) Awareness のように大きな音韻単位の認識が必要 (Inagaki, Hatano & Otake, 2000)

モーラ区切り (CV)

## ◆ 英語

- 音韻構造が複雑であり、大小いずれの音韻単位の認識が必要 (Scarborough, Ehri, Olson, & Fowler, 1998; etc.)

オンセット・ライム区切り (C+VC)

➡ 日本語 (L1) から、英語 (L2) の単語読みに必要な  
小さな音韻単位の Awareness の転移可能性は低い

➡ 明示的指導の必要性

## 日本語と英語の基本的な音韻単位が異なるために起こる現象

- チャンツを言うとき
  - 例えば「tennis のはじめの音と同じ音で始まる語を言おう!」  
という活動の中で
  - 例えば「/p/ から始まる語を言おう!」という活動の中で
- 
- ✓ 英語の語を発音するときに、子音で終わる語の後に母音を伴う
  - ✓ 子音連結 (consonant cluster) を成す子音の後に母音を伴う

## 母音挿入 (vowel epenthesis)

特に英語の子音について、  
最も小さい「音素」の単位の音を保つ (= 保持する) ことが難しく、  
後ろに母音を伴うことで  
「聞き慣れた」音として記憶してしまうと考えられる

するといった文字の名称の読み方を扱うものとする。文字の名称の読み方を指導する際には、小学校第3学年の国語科において日本語のローマ字表記が扱われていることを踏まえ、特に a, e, i, o, u などの母音字について、日本語のローマ字表記の読み方と英語の文字の名称の読み方が異なることに留意して指導することが必要である。

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語・外国語活動編 p. 84

られる。このように、国語科の学習や言語活動に結び付くよう指導の時期を工夫したり、関連のある学習内容や言語活動を取り上げた単元の設定を工夫したりすることなどが考えられる。また、第3学年及び第4学年の国語科において、主語と述語との関係について学習したことを踏まえて、高学年の外国語科において、日本語と比較する中で、英語の語順に気付かせることも考えられる。さらに、第3学年の国語科において、ローマ字を学習したことを生かし、例えば「カ」という日本語の音は、ローマ字で < ka > と表記されるが、この発音から、/a/ という音を省かせることで、/k/ という英語の文字である k の音を意識させることができる。

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語・外国語活動編 p. 126

ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くことは、ローマ字での読み書きについて示したものである。ローマ字表記が添えられた案内板やパンフレットを見たり、コンピュータを使ったりする機会が増えるなど、ローマ字は児童の生活に身近なものになっていることなどを踏まえ、第3学年で指導するものとする。

日常使われている簡単な単語とは、地名や人名などの固有名詞を含めた、児童が日常目にする簡単な単語のことである。

ローマ字の表記に当たっては、「ローマ字のつづり方」(昭和29年内閣告示)を踏まえることとなる。ここでは、「一般に国語を書き表す際には第1表に掲げたつづり方によるものと」し、「従来の慣例をにわかに改めがたい事情にある場合に限り、第2表に掲げたつづり方によっても差し支えない」こととされている。第1表(いわゆる訓令式)による表記の指導に当たっては、日本語の音が子音と母音の組み合わせで成り立っていることを理解することが重要である。第2表(いわゆるヘボン式と日本式)による表記の指導に当たっては、例えば、パスポートに記載される氏名の表記など、外国の人たちとコミュニケーションをとる際に用いられることが多い表記の仕方を理解することが重要である。

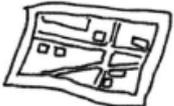
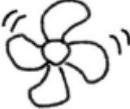


一緒に体験してみましよう

文字指導のための  
レディネスを高める

読み書き技能獲得に必要な技能

ペアの語の「はじめの音」が同じなら○、違うなら×を空欄に書き込みましょう。

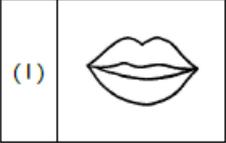
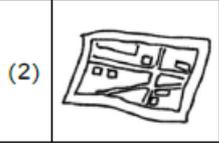
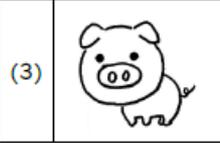
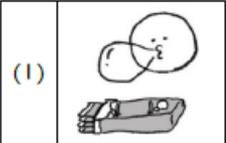
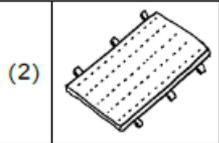
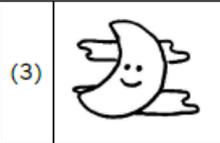
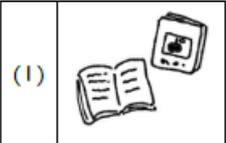
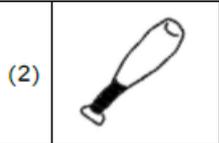
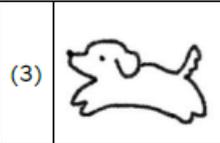
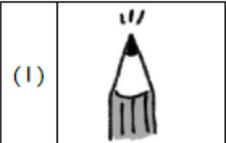
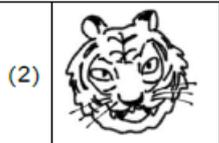
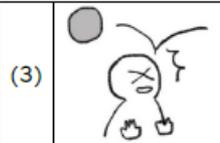
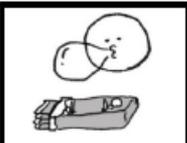
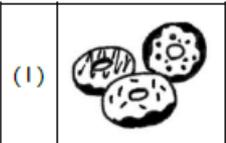
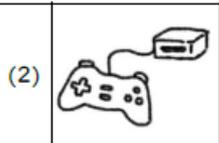
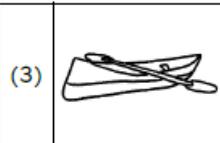
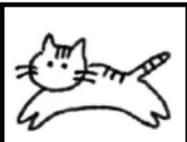
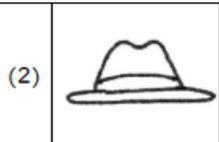
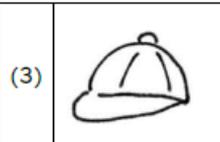
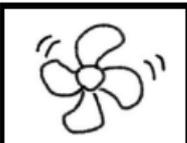
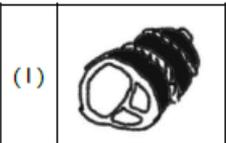
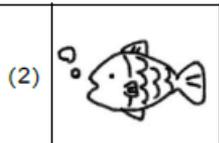
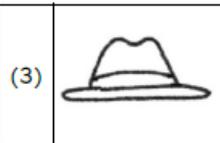
			○ or ×
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			



「英語情報 Web」  
 《小学校英語》「音あそび」をしよう！  
 STEP 8「ターゲットとはじめの音が  
 同じかな？～初頭音の認識～」  
 ワークシート8-1 より

<https://eigojoho.eiken.or.jp/lesson/427/>

①～⑦の絵の表す語の「はじめの音」が、それぞれの (1)～(3) の絵が表す語の「はじめの音」と同じなら、絵を○で囲みましょう。

①		(1) 	(2) 	(3) 
②		(1) 	(2) 	(3) 
③		(1) 	(2) 	(3) 
④		(1) 	(2) 	(3) 
⑤		(1) 	(2) 	(3) 
⑥		(1) 	(2) 	(3) 
⑦		(1) 	(2) 	(3) 

「英語情報 Web」  
 《小学校英語》「音あそび」をしよう！  
 STEP 8「ターゲットとはじめの音が  
 同じかな？～初頭音の認識～」  
 ワークシート8-2 より



## KEY 4

### 「書くこと」

小学校で求められていることを理解する

## 小学校「外国語」における「書くこと」の領域の目標

### (5) 書くこと

ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。

この目標は、大文字及び小文字を正しく書き分けること、語順を意識しながら、語と語の区切りに注意して、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにすることを示している。

文字を書く指導に当たり、大文字、小文字を活字体で書かせる際には、「a, c, e」, 「f, l」, 「g, y」など文字の高さの違いを意識させたり、「p, q」, 「b, d」など紛らわしい形などを意識させたりするなど、指導の工夫をする必要がある。また、Aa からアルファベット順に指導すべきものと考えられるのではなく、どの文字から書く指導をした方が児童にとって効果的であるかを考えることも大切である。例えば、A, H, I などの左右対称の文字、Cc, Jj, Kk などの大文字と小文字の形がほぼ同じ文字等、文字の形の特徴を捉えて指導するなど工夫することが大切である。

また、「語順を意識しながら」としたのは、“Sakura pushed Taku.”を、“Taku pushed Sakura.”と語の順序を替えれば、意味が大きく異なってしまうように、英語では意味の伝達において語順が重要な役割を担っているからである。なお、児童に英語の文構造を理解させるために、語の配列等の特徴を日本語との比較の中で捉えて指導を行うことも有効である。

## 小学校「外国語」における「書くこと」の領域の目標

イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

この目標は、英語で書かれた文、又はまとまりのある文章を参考にして、その中の一部の語、あるいは一文を自分が表現したい内容のものに置き換えて文や文章を書くことができるようにすることを示している。

例えば、名前や年齢、趣味、好き嫌いなど自分に関する事柄について、英語で書かれた文、又はまとまりのある文章の一部を、例示された語句、あるいは文の中から選んだものに置き換えて、自分に関する文や文章を書く活動が考えられる。その際、例示された中に児童の表現したい語句、又は文がない場合は、指導者が個別に書きたい語句を英語で提示するなど、児童の積極的に書こうとする気持ちに柔軟に対応する必要がある。

- ◆ 文のはじめは「大文字」になっていますか？
- ◆ 文のおわりには「. (ピリオド)」がついていますか？
- ◆ 場所や人の名前、地名などのはじめは「大文字」になっていますか？
- ◆ 語と語の間にはスペースがあいていますか？ ⇒ n や o が1つ分(以上)
- ◆ 語はキュッとまとまっていますか？ ⇒ 文字が重なったり、くっつくのとは違う
- ◆ 4線のルールに従って書いていますか？

...



できることを  
ひとつずつ  
重ねていくイメージ

- 文のはじめは「大文字」で書いている
- 文のおわりには「. (ピリオド)」をつけている
- 場所や人の名前、地名などのはじめは「大文字」になっている
- 語と語の間にはスペースがあいている
- 語はキュッとまとまっている
- 4線のルールに従って書いている

...



### 「書き写し」後に可能となる「読む」活動

- 自分で書き写したものを発音してみる
- 書き写したものを友達に見せながら(指で文字を追いながら)、音声でクイズを出題してみる
- 書き写したものをタブレット上などで共有し、友達のものを選んで解いてみる(その際、視覚情報を添えるなどの支援を)

## ◆文字を書くこと

- ✓ まず大まかな形を、大きく書く練習から
- ✓ 手本から目を離して書いてみる
- ✓ 空書きでも「くつつくところ」や「大きさの違い」などを意識して
- ✓ リズムよく、メリハリつけて
- ✓ 空でも語（文字のまとまり）を書いてみよう
- ✓ 紙面に移っても、4線が小さすぎないように。太めの鉛筆で運筆から
- ✓ 黙って書くのか、何か言いながら書くのか？

## ◆文字や語、文を書き写すこと

- ✓ 何のために書き写すのか（目標）を見童と共有する
- ✓ 文字を書く練習／文字を書いて伝え合う活動
- ✓ 語を書く練習／語を書いて伝え合う活動
- ✓ 文を書く練習／文を書いて伝え合う活動
- ✓ 語の中の特定の文字に焦点を当てる（名称、音）／語全体の形のまとまりに焦点を当てる（文字間）
- ✓ 文の中の特定の語に焦点を当てる（発音）／文全体の形のまとまりに焦点を当てる（語間）

## ◆読むこと

- ✓ 繰り返し目にしてきた文字のまとまり (sight word) だから、  
それ(その語)を見て発音できる
- ✓ 書き写したばかりの語句や表現だから  
声に出して読める (read aloud)
- ✓ 視覚情報が表す語を言えるから、  
綴りを見ながら読める (read aloud)
- ✓ 読める (read aloud) 語句や表現だから、  
意味が分かる
- ✓ 語の発音が分かるから、(そしてローマ字綴りの知識もあるから、)  
語の「はじめの音」を取り出して言える



## KEY 5

小学校「外国語」における  
「主体的・対話的で深い学び」の実現

イメージを再確認しましょう

# 質の高い学びの実現に向けた3つの視点

## 主体的な学び

- ・ 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる

## 対話的な学び

- ・ 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める

## 深い学び

- ・ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう

# OECD LEARNING COMPASS 2030



# 質の高い学びの実現に向けた3つの視点

## 主体的な学び

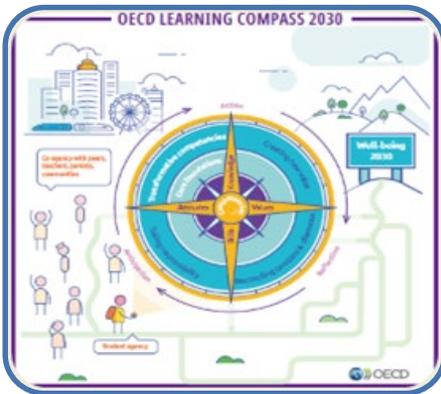
- ・ 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる

## 対話的な学び

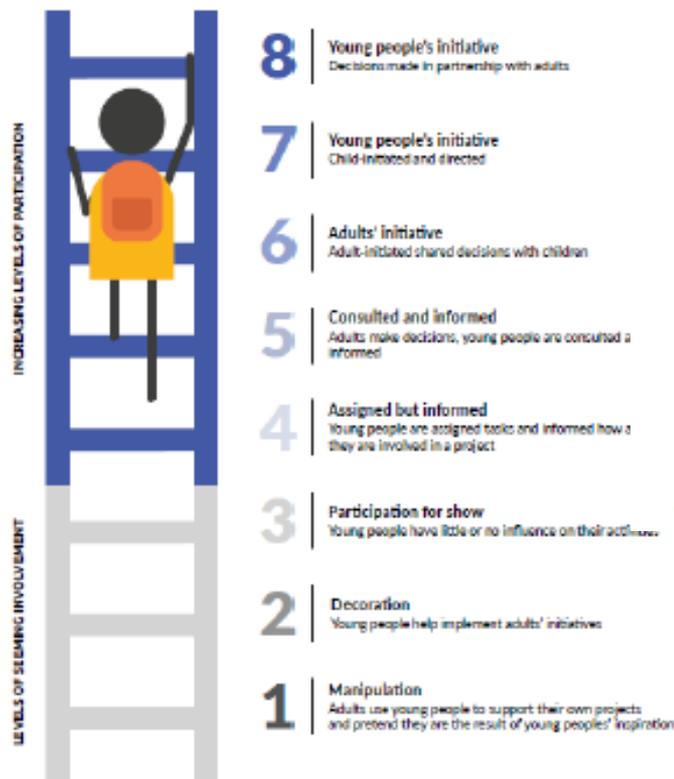
- ・ 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める

## Agency

- ・ エージェンシーとは、自分の人生および周りの世界に対して良い方向に影響を与える能力や意志を持つことを示す。
- ・ エージェンシーを最大限に発揮するために生徒は基礎的なスキルを身につける必要がある。
- ・ 生徒エージェンシーの概念は文化に応じて多様であり、また生涯にわたって発達していく。
- ・ 共同エージェンシーとは、生徒が、共有された目標に向かって邁進できるように支援する、保護者との、教師との、コミュニティとの、そして生徒同士との、双方向的な互いに支え合う関係として定義される。



**Figure 2. The ladder of participation**  
Eight levels of young people's participation



Note: The ladder metaphor is borrowed from Sherry Arnstein (1969); the categories are from Roger Hart (1992).  
Source: Arnstein (1969<sup>[26]</sup>) and Hart (1992<sup>[25]</sup>).

**Figure 3. Sun Model of Co-Agency**

The light is brightest when we shine together



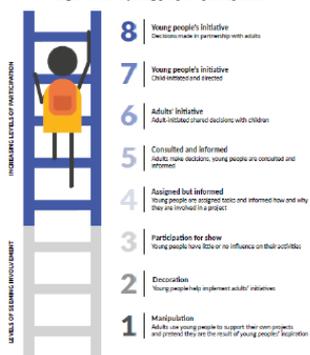
Source: OECD Future of Education and Skills 2030 Student Focus Group.

日本語版



# 共同エージェンシーの段階

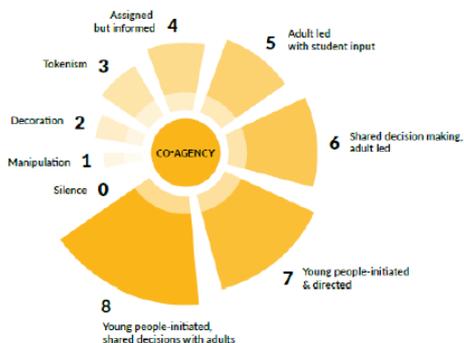
Figure 2. The ladder of participation  
Eight levels of young people's participation



Note: The ladder metaphor is borrowed from Sherry Arnstein (1969); the categories are from Roger Hart (1992). Source: Arnstein (1969)<sup>[20]</sup> and Hart (1992)<sup>[21]</sup>.

Figure 3. Sun Model of Co-Agency

The light is brightest when we shine together



Source: OECD Future of Education and Skills 2030 Student Focus Group.

8	若者が主導し、大人とともに意思決定を共有する	若者がプロジェクトを主導し、意思決定は若者と大人の協働で行われる。プロジェクトの進行や運営は若者と大人の対等な立場で共有される。
7	若者が主導し、方向性を定める	若者が大人の支援を受けてプロジェクトを主導し、方向性を定める。大人は意見を求められたり、若者が意思決定しやすいように指針やアドバイスを与えたりするが、最終的にすべての意思決定は若者が行う。
6	意思決定を大人・若者で有しながら、大人が導く	大人が進め、主導するプロジェクトの意思決定の過程に、若者も参画する。
5	生徒からの意見を基に大人が導く	若者はプロジェクトの設計に関して意見を求められ、その結果について報告を受けるが、大人がプロジェクトを主導し、意思決定を行う。
4	若者に特定の役割が与えられ、伝えられるだけ	若者には特定の役割が与えられ、若者が参加する方法や理由は伝えられているが、若者はプロジェクトの主導や意思決定、プロジェクトにおける自分たちの役割に関する判断には関わらない。
3	形式主義・形だけの平等	大人は若者に選択肢を与えているように見せるが、その内容あるいは参加の仕方に若者が選択する余地は少ない、あるいは皆無である。
2	お飾り	主張を助ける、あるいは勢いづけるために大人が若者を利用する。
1	操り	主張を正当化するために大人が若者を利用し、まるで若者が主導しているかのように見せる。
0	沈黙	若者が貢献できると若者も大人も信じておらず、大人がすべての活動を主導し、すべての意思決定を行うのに対して若者は沈黙を保つ。

「Student Agency for 2030 仮訳」p. 3 を元に改編

[https://www.oecd.org/education/2030-project/teaching-and-learning/learning/student-agency/OECD\\_STUDENT\\_AGENCY\\_FOR\\_2030\\_Concept\\_note\\_Japanese.pdf](https://www.oecd.org/education/2030-project/teaching-and-learning/learning/student-agency/OECD_STUDENT_AGENCY_FOR_2030_Concept_note_Japanese.pdf)

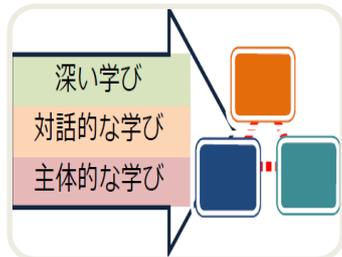
OECD Future of Education and Skills 2030 Concept Note pp. 9, 11

[https://www.oecd.org/education/2030-project/teaching-and-learning/learning/student-agency/Student\\_Agency\\_for\\_2030\\_concept\\_note.pdf](https://www.oecd.org/education/2030-project/teaching-and-learning/learning/student-agency/Student_Agency_for_2030_concept_note.pdf)

## エージェンシー

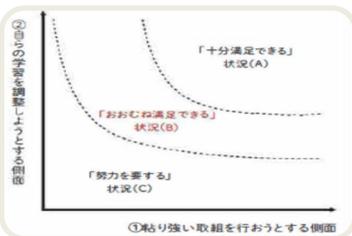


- ・ エージェンシーとは、自分の人生および周りの世界に対して良い方向に影響を与える能力や意志を持つこと。
- ・ エージェンシーを最大限に発揮するために生徒は基礎的なスキルを身につける必要がある。
- ・ 生徒エージェンシーの概念は文化に応じて多様であり、また生涯にわたって発達していく。
- ・ 共同エージェンシーとは、生徒が、共有された目標に向かって邁進できるように支援する、保護者との、教師との、コミュニティとの、そして生徒同士との、双方向的な互いに支え合う関係として定義される。



## 主体的・対話的で深い学び

- ・ 「主体的な学び」：学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる



## 主体的に学習に取り組む態度

- ・ ① 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面
- ・ ② ①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面

# 学習と評価の考え方

## Assessment of Learning

「学習の評価」

✓ 総括的評価



## Assessment for Learning

「学習のための評価」

✓ 形成的評価 (informal / formal)

## Assessment as Learning

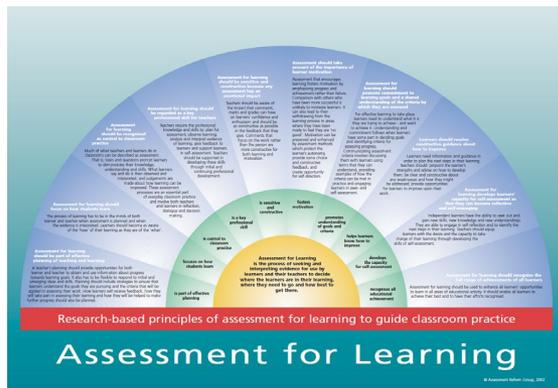
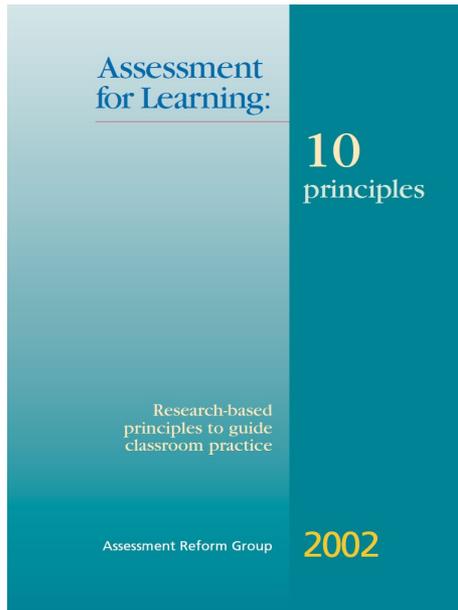
「学習としての評価」

✓ 形成的評価のうち

「学習者としての自分」の理解を強調、  
メタ認知能力を高める

# 10 principles

## Assessment for learning



1. is part of effective planning
2. focuses on how students learn
3. is central to classroom practice
4. is a key professional skill
5. has an emotional impact
6. affects learner motivation
7. promotes commitment to learning goals and assessment criteria
8. helps learners know how to improve
9. encourages self-assessment
10. recognises all achievements

# 「Assessment for Learning」に必要な情報を得るために



- ✓ 「良い学び」を到達目標に照らし合わせて具体的に示し、**学習者と共有する**
- ✓ 自己評価のための**具体的な観点**を分かりやすく示す
- ✓ 学習者が自分の**学びや思考を確認するための問い**を段階的に提示し、その過程を導く
- ✓ 学習者に考える時間を与え、**振り返りや疑問を言葉で表す**ように促す
- ✓ **学習者が相互に**問いかけながら高め合い、理解し合える雰囲気を作る
- ✓ 学習における**曖昧さや不安への耐性**を高められるように支援する

## References

- Adams, M. J. (1990). *Beginning to read. Thinking and learning about print*. Cambridge, MA: The MIT Press.
- Burgess, S. R., & Lonigan, C. J. (1998). Bidirectional relations of phonological sensitivity and prereading abilities: Evidence from a preschool sample. *Journal of Experimental Child Psychology, 70*, 117-141.
- Ikeda, C. (2015). *Introducing Phonological Awareness and Early Literacy Instruction into Japanese Elementary School English Education — Its Significance and Feasibility —*. Tokyo: Kaitakusha.
- 池田 周 (2016)「日本語を母語とする小学生の英語音韻認識 — 日本語音韻構造の影響 —」, *JES Journal, 16*, 116–131.
- 池田 周 (2018)「日本語を母語とする小学生の音韻認識 — 音素操作タスクに見られるモーラ認識の影響 —」, *JES Journal, 18*, 52-67.
- Inagaki, K., Hatano, G., & Otake, T. (2000). The effect of kana literacy acquisition on the speech segmentation unit used by Japanese young children. *Journal of Experimental Child Psychology, 75*, 70-91.
- Johnston, R. S., Anderson, M., & Holligan, C. (1996). Knowledge of the alphabet and explicit awareness of phonemes in prereaders: The nature of the relationship. *Reading and Writing, 8* (3), 217-234.
- Jongejan, W., Verhoeven, L., & Siegel, L. S. (2007). Predictors of reading and spelling abilities in first- and second-language learners. *Journal of Educational Psychology, 99*, (4), 835-851.
- Perfetti, C. A., Beck, I., Bell, L., & Hughes, C. (1987). Phonemic knowledge and learning to read are reciprocal: A longitudinal study of first grade children. *Merrill-Palmer Quarterly, 33*, 283-319.
- Snow, C. E., Burns, M. S., & Griffin, P. (Eds.). (1998). *Preventing reading difficulties in young children*. Washington, DC: National Academy Press.
- Stanovich, K. E. (1986). Matthew effects in reading: Some consequences of individual differences in the acquisition of literacy. *Reading Research Quarterly, 21* (4), 360-407.
- Treiman, R. & Zukowski, A. (1996). Children's sensitivity to syllables, onsets, rimes, and phonemes. *Journal of Experimental Child Psychology, 61*, 193-215.
- Vandervelden, M. C., & Siegel, L. S. (1995). Phonological recoding and phoneme awareness in early literacy: A developmental approach. *Reading Research Quarterly, 30*, 854-875.